



第22回仁淀川親子ふれあい交流体験 「子どもたちと川へ!親子で遊ぶ仁淀川」

(仁淀川漁業協同組合、仁淀川清流保全推進協議会、仁淀川流域交流会議)

令和7年7月27日(日)に越知町宮の前公園で、「第22回仁淀川親子交流体験～子どもたちと川へ!親子で遊ぶ仁淀川～(安全教室、いきもの教室、あまごつかみ取り)」が行われました。

前日の雨とダムでの放流の影響で、川流れ体験や、生きもの調べなどの川に入っている体験プログラムは実施できませんでしたが、それでもたくさんの親子が集まり、大盛況の一日となりました。

最初に行ったのは、水辺で遊ぶ前に欠かせない「安全教室」。担当は、大下先生。

まずは、ライフジャケットを自分たちで着てみました。参加者全員がライフジャケットを着たところで、大下先生がチェックを行いました。「肩を持って揺すってグラグラしている場合はライフジャケットが脱げてしまう可能性があるため、腰のベルトを締めてしっかり体にフィットさせることが大切です。」と大下先生から説明があると、「へー!なるほど!」という声があがり、皆さん熱心に学んでいました。

安全教室ではクイズも交えて、川とプールの違い、水の怖さ、そして「命を守るための判断」の大切さを学びました。川は日によって流れも深さも変わる自然の場所。以前遊んだことがある場所でも、必ず事前に天候や川の様子を確認することが大切です。「危ないかも」と思ったら、やめる判断が一番の安全策。「ちょっとくらい大丈夫」は、水辺では通用しません。

続いて、石川先生による「いきもの教室」を行いました。前日、勝賀瀬川で採集しておいた川虫や魚を水槽に入れて観察しました。ヘビトンボやサナエトンボの幼虫など、水がきれいな証拠とも言える川虫もありました。ヘビトンボの幼虫は小さな脚を使って水中をもぞもぞと動き、立派なアゴをもった生きものです。幼虫時代は2～3年もあり、その間、川の石の下などで暮らしています。この幼虫がたくさん見つかるということは、長い時間をかけて川の水がきれいであり続けている証拠。

また、彼らが生きていくためにはエサとなる小さな生きものが必要なため、川の生態系全体が豊かであることがうかがえます。

水槽に入った生きものを子どもたちは目を輝かせて観察していました。

イベントの最後には、あまごのつかみ取り!元気に泳ぎ回るあまごを子どもたちは夢中で追いかけていました。

そして、香ばしい鮎の塩焼きをいただき、楽しいイベントは幕を閉じました。自然を楽しむためには、正しい知識と準備が何よりも大切です。夏休み中、川遊びに行かれる方は「安全第一」で、楽しい思い出を作ってくださいね!